

今、何の病気が流行しているか！

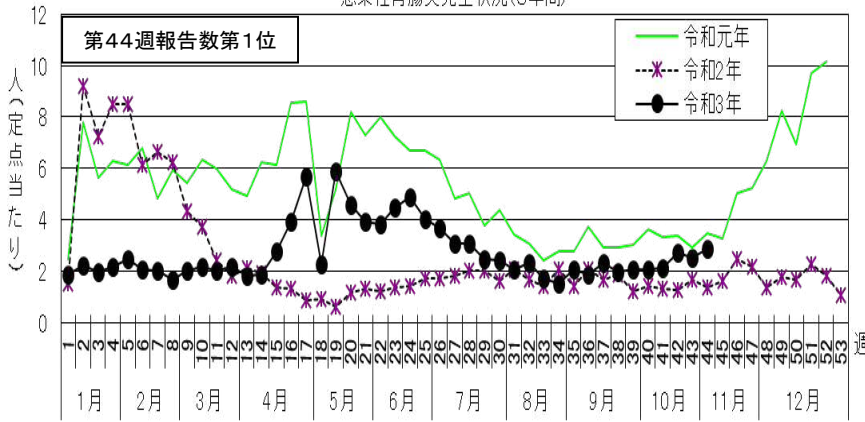
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年11月1日（月）～令和3年11月7日（日）〔令和3年第44週〕の感染症発生状況

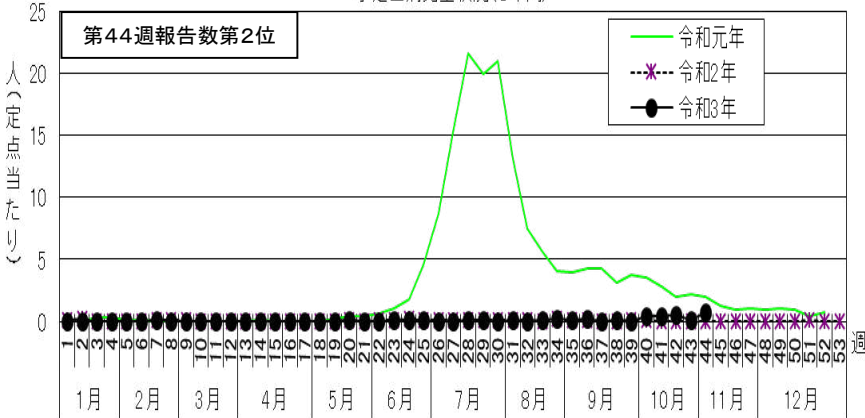
第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（2.54人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.76人と前週（0.11人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.84人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.32人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病発生状況(3年間)



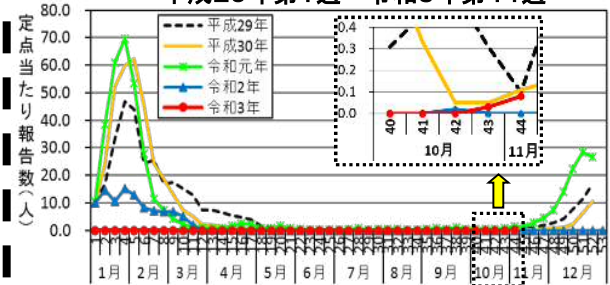
この冬、気を付けたい感染症～インフルエンザ～

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とし、突然の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などの症状がみられる感染症です。

全国におけるインフルエンザの報告数は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和2年以降大幅に減少し、川崎市においても昨シーズンはほとんど報告がありませんでした。今シーズンは令和3年第43週（10月25日～10月31日）に初めての報告（定点当たり0.03人）があり、第44週（11月1日～11月7日）は定点当たり0.08人となりました。

インフルエンザの予防には、こまめな手洗いや正しいマスクの着用が重要ですが、日頃から体調を整え、ワクチンの接種も御検討ください。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況
～平成29年第1週～令和3年第44週～



川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）のリアルタイムサーベイランスによると、10月25日から11月7日までにB型インフルエンザの報告が3件ありました。



新型コロナワクチンとの接種間隔に御注意ください！

新型コロナワクチンは、原則として他のワクチンとの同時接種はできません。また、他のワクチンとの接種間隔を前後13日間空ける必要があるため、インフルエンザワクチンの接種を予定されている方は御注意ください。

●新型コロナワクチンと他のワクチンの接種間隔について



【例】11月10日に新型コロナワクチンを接種した場合、11月24日以降にインフルエンザワクチンを接種することができます。